

東

京・下北沢の再開発問題について、僕が04年5月号のこのワクで書かせてもらってから2年半。事態が新たな段階に突入したので報告させてもらおう。

まず03年末に僕も最初から参加している「Save the 下北沢」(<http://www.stsk.net/>)が、街を分断する新規道路補助54号線の中止を求めて立ち上がったから約1年後、世田谷区はその道路を前提に駅周辺の高層化を誘導する地区計画の骨子案を発表。これが単なる道路問題ではなく、大規模な再開発に直結していることが明らかになった。正直言って僕自身はその枠組みのあまりの大きさに慄然とした。だがこれ以降、この計画を良しとしない団体が、次々と名乗りを上げたのである。

○下北沢フォーラム (<http://shimokitazawa-forum.net/>)
まちづくりの専門家が中心となり、住民・商店へのアンケートや住民参加のワークショップを実施し、具体的な代替案の提案などで活躍。

○下北沢商業者協議会 (<http://www.shimokitazawa-sk.org/>)

ジャズ・バーLady Jane店主、大木雄高氏を代表とする商業者団体。
○まもれシモキター！行政訴訟の会

(<http://www.shimokitazawa-action.net/>)
今年9月に東京都に54号線の差し止めを求めて提訴した訴訟団。

これに「Save the 下北沢」を加えた四つの団体は、いずれも下北沢を拠点としているため、当然互いの顔見知りも多い。とはいえ得意分野や行政に対する姿勢で異なるところもあるため、棲み分けるような形で再開発問題に対して取り組んできた。

その中でも「Save the 下北沢」と「下北沢商業者協議会」は、交互にサウンド・パレードを企画していることもあって連携も強い。例えば10月17日の「下北IN SIST!」の主催は「下北沢商業者協議会」だったが、僕が協議会からのリクエストを受け、サウンド・パレードに先立つライブ演奏のコーディネートも務めることとなった。手前味噌ではあるが、シモキター分隊という名前のもと参加できる最大限のメンバーを結集してくれた渋谷さくらズ、ソウル・フラワー・ユニオンの中川敬と河村博司、さらに今年2

行政による新たな手続き突破で 新局面を迎えた下北沢再開発問題

志田 歩

月にこの問題をテーマにしたシングル「アモーレ下北」を発表した僕自身が、互いのレパトリーをいっしょに演奏するセッションを実現できたのは、すごい体験だった。平日の真つ昼間の行政への抗議行動ということで動員も心配されていたが、結果的にはパレードの人数も約300人にのぼった。この場をお借りして、参加、応援して下さいの皆様と、協力してくれた皆様に、改めてお礼申し上げます。

*

しかしその翌日に事態は大きく動いた。まず18日の朝に東京都は新規道路の事業を認可。午後には開かれた世田谷区都市計画審議会では、その道路を前提とした地区計画も承認され、行政は一挙に二つの手続きを突破してしまっただけである。

僕は取材という立場で、この審議会を傍聴していたが、もしそうでなく伝聞だったら、「いくらなんでも……」と信じられないほど、そのやり取りは身も蓋もないものだった。まずこの審議会のための資料として行政が収集した意見書は、職員が計画

賛成の意見の雛形を作成して配布していたことが明らかにされていた。これは行政の中立性を逸脱した世田谷区職員の職権乱用で、今後は刑事事件となる可能性さえある蛮行だ。

そうした賛成誘導の工作がなされていたが、それでも意見書のうちわけは、この計画に対して6割が反対で4割が賛成だった。しかし驚くべきことに、「意見書の反対の数にたいした意味はない」という暴論さえ飛び出す推進派の委員に促されるように採決が行われ、審議会は計画賛成の答申を出したのだ。

これに対するメディアの反応は様々だが、こうした事情を調べずに「一部の反対派」という言い方をするようないい加減な報道には、腹が立って仕方がない。

とはいえ11月20日には、いよいよ法廷で最初の口頭弁論も行われる。また来年4月の統一地方選が、この問題に及ぼす影響も見逃せない。事業認可の阻止をこれまでの課題に動いてきた「Save the 下北沢」も、今後は新たな段階への有効な手だてを打つべく、態勢を立て直しているところだ。ここ数日、僕の頭の中では、中川が歌ってくれた「がんばろう」が、ループしっぱなしである。